



# KELES Newsletter

No. 2

発行日 2006年（平成18年） 5月10日

関西英語教育学会ニューズレター

## ◆ KELES改革に向かって ～時は今～

会長 瀬川 俊一

つつじが新緑に映える季節となりました。新年度の慌しさも一段落し、連休明けで、会員の皆様方が快調にご活躍の日々を想っています。

5月27日（土）・28日（日）の第10回記念研究大会の諸準備に大会準備委員一同、公務の間隙を縫って、奔走中です。研究発表・実践報告・ワークショップで、研鑽の成果を発表して下さる会員の皆様方にお礼申し上げます。ご参会の会員の皆様方とともに教育研究・英語教育研究を熱く語り合おうではありませんか。

ニューズレターで以前より予告させて頂いておりましたように、今回の会員総会におきまして、本学会の抜本的な改定案を上程させて頂きます。研究大会・地区別セミナー・紀要・役員人事制度、の改変、及び、それに伴う諸規定の改定が検討課題です。宜しくご検討下さいますようお願いいたします。

会員の皆様方に研究大会・会員総会でお目にかかれまますのを今から楽しみにしております。

（平成18年5月9日、記。）

## ◆ 第9回卒論・修論研究発表セミナー大会報告

- 2006年2月19日（日）
- 同志社大学（今出川キャンパス）
- the Muse — 新たなる世界へ —

第9回「卒論・修論研究発表セミナー」を終えて

大会運営委員長 綱井 勇吾（京都大・院）  
「ネットワーク」が2006年2月19日（日）に同志社大学で行われた第9回「卒論・修論研究発表セミナー」を形容するのに最も相応しい鍵言葉である。合計で24件の研究発表（卒論15件、修論9件）が行われ、延べ140人の方が来場して下さいました。発表内容も非常に高度なものが多く、質疑応答では、会場から忌憚のない意見が出され、活発な議論が交わされました。発表終了後にも、聞き手と話し手の積極的な意見交換が行われ、発表者のみならず、参加者の方にとっても、英語教育や関連分野に関する洞察を深める機会となり、知識のネットワークを広げる一助となっていれば幸甚の極みである。

恒例のスペシャルトークでは、加藤学園のMickael

Bostwick先生と広島大学の玉岡賀津雄先生を講師に迎え、最新の研究成果も交えながらお話し頂いた。Bostwick先生には、イマージョンプログラム（immersion program）に対する誤解を、脳科学の視点などを交え解して頂き、早期英語教育などに関する話題についてもお話し頂いた。講演後には非常に多くの質問が飛び交い、特に学生からの発言が多く見られたのが印象的だった。玉岡先生には、「研究のあるべき姿」について、御自身のこれまでの道のりなどを交えて教えて頂いた。特に、「研究を勉強としてではなく、『遊び』として捉え、良い論文をたくさん読む」というお話には、学生だけでなく先生方にも刺激になったようでした。

大会終了後に行われた懇親会では、大勢の発表者と先生方が参加して下さい、和やかな雰囲気の中、親睦を深められた。懇親会参加者の社会的ネットワークの拡大に役立っていれば幸いであるが、緊張から開放された発表者の方々の笑顔がとても印象的だった。

最後に、本大会が盛会に終わったのは、ひとえに朝早くから参加して下さいました発表者と参加者の皆様の御尽力によるものである。心より御礼と感謝を申し上げる。様々

な大学の学生が一同に会して、日頃の研究成果について紹介し、交流を深めることができるこのような素晴らしい機会が、今後とも継続・発展していくことを願ってやまない。

#### 第9回「卒論・修論研究発表セミナー」報告

大会委員長 赤松 信彦(同志社大学)

第9回卒論・修論研究発表セミナーが2月19日、京都市の同志社大学今出川キャンパスで開かれました。参加者は130名を超え、活発な研究発表が行われました。

発表者は25名(卒論15, 修論9)で、午前中は卒業論文研究、そして、午後は主に修士論文研究の発表が行われました。それぞれの論文発表の後には、活発な質疑がなされ、参加者の皆さんやコーディネーターの先生と発表者との間で有意義なディスカッションが展開されました。発表に対しては、時には厳しい指摘もありましたが、全般として、丁寧な暖かい助言が多く、また、昨年度よりも発表者のプレゼンテーション能力が上がったように感じました。

今年のスペシャル・トークには、加藤学園のMichael Bostwick先生と広島大学留学センター教授の玉岡賀津雄先生のお二人の先生にお越し頂き、貴重なお話をさせていただきました。Bostwick先生は、「Six Common Myths Surrounding Early Foreign Language Learning」と題して、日本の早期英語教育で問題として取り上げられ

ている課題について、研究事例や具体的な例をまじえながら、熱っぽくお話くださいました。また、玉岡先生は、「出会いと統計と研究の多様な可能性」というテーマで、自分が知りたい事、興味のあるテーマに焦点を当てつつも、簡潔に分析できるように要因を絞ることの重要性を、具体例を挙げながら語られました。また、近年取り組んでおられる研究が、新たな研究分野への進出と共同研究の成果であることを指摘され、研究に対する真摯な態度が豊かな研究成果に繋がることを示唆されました。Bostwick先生と玉岡先生のお話は、学生のみならず、研究者の我々にとっても、刺激の多い内容で、150分があつという間に過ぎてしまいました。

セミナーの後に開かれた懇親会には、発表者を中心に、約40名の方々が参加してくださいました。親しみやすい雰囲気の中、和やかに歓談されている学生と教員の姿が印象的でした。

#### ● スペシャルトーク

講師：玉岡 賀津雄 先生(広島大学)

「出会いと統計と研究の多様な可能性」

講師：Michael Bostwick 先生(静岡加藤学園)

*Six Common Myths Surrounding Early Foreign Language Learning*

※ 同封の第9回卒論・修論研究発表セミナー・スペシャルトークのご報告をご参照下さい。

## ◆ 和歌山地区セミナーのご報告

- 担当理事：奥田隆一（和歌山大）
- 日時：2006年3月18日(土)
- 会場：和歌山市民会館

昨年からはまった和歌山地区セミナーは、前回と同じように、交通の便を考えて、和歌山大学でなく、和歌山市民会館で開催されました。今回のセミナーは、和歌山地区の会員を少しでも増やすことを目標に、現職の先生が気楽な雰囲気、参加していただくことを考え、研究発表だけでなく、実践報告もプログラムに組み込むことにしました。また、講演も、瀬川会長先生に無理にお願いし、関西教育学会の宣伝も兼ね「私の英語教育と関西英語教育学会」というタイトルでご講演いただきました。

内容的には、昨年度より多くの方が来場され、質疑

応答も活発に行なわれ、充実したものになりました。瀬川先生のご好意で、報告と発表に予定以上の時間を使ったため、瀬川先生のご講演の時間が短くなってしまい、先生のおっしゃったことの3分の1もお話していただけず、心苦しい限りです。もっと十分に時間を取って、再度ご講演いただこうと考えております。

(担当理事：奥田隆一)

《 実践報告 》

「中学校英語--問題点と私の工夫」

平尾好子(有田市立保田中)

英語に興味を失って行く生徒や、小学校から英語を学んできている生徒にどう対処するかという、中学校英語にある問題点を指摘。そして、英語に興味を

持たせるため、本物を使うことが重要だと語られた。英語のレシピに従ってお菓子を作る、本物のお金を使い買い物の授業を行う、海外との文通をする、など具体例をあげて説明された。また、生徒が作った、日本を紹介する冊子などをみんなに披露された。

音読と暗唱を授業に取り入れる方法として、すごろくを使う方法や早く読むことを競わせる方法などを紹介。さらに、学力差がある生徒に対しての取り組みについて説明された。英語が苦手な生徒のために、週1回、昼休みに、別室で、仮名文字を使って英語の読みを指導していることも紹介された。

現場で英語を教える上での問題点が具体的に示され、それに対して一生懸命に取り組んでいる様子が分かり、大変参考になった実践報告であった。

#### 《研究発表1》

##### 「リーディングクラスにおける多読指導の効果」

畠中加代子(和歌山高)

高等学校でも、英会話が強調されてきているが、実践の場がないことを考えれば、やはり、リーディングの力をきちんと付ける方が重要だと主張された。ところが、英語のリーディングに関しては今までのやり方の授業、つまり、精読の授業、について行けない学生が多い。そこで、別のやり方をしなければ、英語が弱い学生のリーディングの力を上げることはできないと考え、多読指導を実践された。

100冊のGraded Readersを学生に与え、自分たちの興味のある本を選択し、自宅で自分のペースで読んでこさせ、その本の内容について、リーディング記録シートに簡単に書かせる方法をとるだけで、従来と同じ精読方式のクラスと比べて、リーディングの力は顕著に伸びたという発表であった。

何よりも、学生が楽しんで英語を読んでみようとする態度が身に付いたというので、簡単な英語をたくさん読ませることの重要性を改めて感じた発表であった。

#### 《研究発表2》

##### 「OC-Iの評価の在り方について」

中川 裕規(新宮高・和歌山大院生)

高等学校のオーラルコミュニケーションIについては、いろいろなく封をして教えられているようだが、この発表では、最近話題になってきている、「評価」をどのように

するかについての研究の成果を語られた。

特に、年間指導計画と評価計画を立てなければならないことを強調され、具体的な例を示された。また、スピーキング・リスニング技能に対する評価はどうあるべきかを具体的なレッスンを示し、評価シートの例をあげられ、最終的に評価から評定への変換の仕方について、細かい点まで説明された。また、評価から評定への変換表や理想的なOC-Iの通知簿についても提案された。

具体的な評価についての問題点と、対処方法が示され、大変参考になった、しかし、具体的に、学生の多様な異なる発言をどう評価するかについては、考察されてなく、これからの研究が期待されるものであった。

#### 《講演》

##### 「私の英語教育と関西英語教育学会」

瀬川俊一先生(関西英語教育学会会長)

まず、関西英語教育学会の会長という立場から、学会の主旨と、これまでの発展の経緯などを、裏話を交えながら、英語教育をみんなで考えて行く重要性を、いつもの軽快な口調で語られた。

次に、三層の円盤の図を黒板に書かれ、教員としての適性について説明された。この三層の円盤というのは、一番下が一番大きく、二番目が一回り小さく、三番目がさらに一回り小さいというもので、上に行くほど小さくなっている。この一番下の円盤が、「人間力」、つまり、分野に関わらず必要なもので、二番目が「専門力」で、教職に関するものであり、三番目が「特化された専門力」すなわち英語科に関する専門的な知識や技能だということだ。これらの円盤は大きければ大きいほどいいのだが、ともすると、三番目の「特化された専門力」がおろそかになるので、これを大きくするために努力すべきだと語られた。

また、英語を教える時にも、かっこ良くやりたいと思うことは大事で、そのためには、努力すべきで、他の人に負けてはダメだということを熱く語られた。さらに、英語の発音を教える時に有効な、日本語の五十音をベースにした英語の発音訓練方法を具体的に示された。

先生の熱く語られる内容に、なるほどと聞き入っているうちに、時間がオーバーしてしまっていた。聞いている誰もが、「もう少し時間があれば、もっと刺激的なお話を伺えるのに」と思った、大変興味深いご講演であった。

(担当理事:奥田隆一)

## ◆ 会計よりお知らせ

- 会費納入のお願い  
年会費は以下の通りです。同封の払込票で最寄りの郵便局にてお振込み下さい。
  - 会員種別年会費
    1. 一般会員（関西のみ） 5000円
    2. 一般会員（関西+全国） 7000円
    3. 学生会員（関西のみ） 3000円
    4. 学生会員（関西+全国） 5000円
  - 郵便振込： 00910-7-39666
  - 加入者名： 関西英語教育学会
- ※年会費に関するお問い合わせは、  
会計 岡良和まで [oka@uhe.ac.jp](mailto:oka@uhe.ac.jp)

## ◆ 名簿係よりお知らせ

「個人情報保護に関する法律」の制定に伴い、学会にも会員情報の適切な管理が求められるようになってきており、このたび、KELESにおきましても、従来の形での会員名簿を取りやめ、氏名と所属のみの名簿掲載させて頂くことになりました。

昨年度より、会員の皆様には、その主旨をご理解いただき、情報調査へご協力いただき誠にあり

がございました。この度、会員名簿を別紙に掲載いたしましたのでご高覧下さい。

なお、御所属が空欄になっておりますのは、ご本人の意思を尊重してそのようにしておりますので、あらかじめご了承下さい。

※名簿に関するお問い合わせは、倉本まで  
[[keles\\_nyukai@infoseek.jp](mailto:keles_nyukai@infoseek.jp)]

## ◆ 関連学会の予定

- 第46回外国語教育メディア学会全国研究大会  
日時： 2006年8月2日(木)～4日(土)  
会場： 京都産業大学
- 第32回全国英語教育学会高知研究大会  
日時： 2006年8月5日(土)～6日(日)  
会場： 高知大学朝倉キャンパス
- ASIA TEFL第4回大会  
日時： 2006年8月18日(金)～20日(日)  
会場： 西南学院大学



## ◆ 事務局移転のお知らせ

2006年度4月より、事務局長所属変更のため、事務局が下記に移転いたしました。会員の皆様にはご不自由をおかけしますが、何卒、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 《 関西英語教育学会ニューズレター 》

編集発行：関西英語教育学会 (KELES) 事務局

〒564-8680

関西大学 外国語教育研究機構 吉田研究室内

TEL：06-6368-0477（直通）

E-mail： [keles@infoseek.jp](mailto:keles@infoseek.jp)

Home Page： <http://keles.hp.infoseek.co.jp/>

